

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500664		
法人名	有限会社 ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム相良の家		
所在地	静岡県牧之原市新庄1792-1		
自己評価作成日	平成25年1月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action=kouhyou\\_detail\\_2010\\_022\\_kani=true&Ji\\_gyosyoCd=227](http://x.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=227)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成25年1月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中学生や高校生の体験学習の場にもなっています。 お花見や焼き芋、今年は運動会も行っ季節を感じてもらっています。
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は牧之原市でも、御前崎市と数百メートルには満たない市境の山間地ですが、近隣の茶畑には農家・民家・工場などが点在し緑に囲まれた清閑な場所に鉄筋2階建てで所在しています。各階のユニットを訪問して驚く事は車椅子の利用者が見当たらない事、車椅子の利用者でも移動に必要な時のみの使用との事。事業所の理念を職員各位が共有し『ゆったりと 楽しく 自由に 地域で仲間と一緒に暮らす』を実践すべく、施設内でも家庭でしてきた事と同じように過ごしていただくよう支援する事が自立支援に役立つとの信念で従事している事が職員からのヒアリングからも理解できます。地域の諸インフラとの連携も良い施設と感じます。
---

## Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念のほか『ゆったりと 楽しく 自由に 地域で仲間と一緒に暮らす』という相良の家の理念を持っている。朝礼などで読み、共有し実践に繋げている。	法人が掲げる地域に根づいた介護の場を目指すよう事業所としての理念を各所に掲げ職員全員が共有しています。各ユニットの利用者の生活振りや話題から、また職員の介護の場に接しても成果を感じる事が出来ます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会費を支払い、秋の祭典や公民館祭りに参加し地域と交流している。ボランティアの方にも来てもらい、利用者の楽しみに繋げている。	地域で行う諸行事への参加は職員レベルを含めて日常的に行われています。特に公民館祭りへの利用者の参加は、馴染みの方々との交流の場でもあり双方から喜ばれていました。ボランティアの慰問も楽しい時間です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を借りて認知症の理解を深めたり、キャラバンメイトになり認知症サポーターの育成に貢献している。防災訓練、学生の体験学習の時には、どのようなお年寄りがいるか話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は運営推進会議を開き、定例メンバーのほかに講師の方に来て頂いたりしている。その中で情報交換や意見を頂いている。	会議は定期的開催され、出席者の構成も良く、議題も地域に密着した事業所である事を理解し得よう工夫されています。今後は職員の当該事業所としてのケアについての研修成果発表の場としても考えていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の方には運営推進会議に毎回参加していただき、貴重な意見を頂いています。書類を提出に行く時などには情報交換したりしています。	行政との連携に関しては、日頃から円滑に行われていて、ネックになっている事はないようです。運営推進会議の場でも、積極的に意見をいただいていたいました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしており、職員は講習などを受けていて身体拘束は行っていない。安全面を考慮し、一人体制の時には施錠している。	法人の新人研修、定期研修にても毎回取り上げられ、身体拘束に関する基本的な事柄は職員全員が理解しています。職員会議や朝礼時を通じ現場での細かな言葉遣いまで職員同士で検証しあっていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルもあり、職員は法人の講習を受けて虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習に参加する職員は少ない。また必要とする利用者がいた時には学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や入居の時には十分に説明を行っている。入居後も随時疑問や質問があれば説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは意見、要望が言いやすい関係を築くように心がけている。運営推進会議にも家族に参加して頂き、意見を聞いている。介護相談員の派遣もあり、その内容を反映している。	事業所が毎月発信している各家族あての「事業所たより」も事業所の行事から対象利用者の様子まで記載されているので好評との事。その結果、各家族から多くの意見も頂き、運営に反映するよう努めているようです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議、ユニット会議では職員の意見や提案を話す機会を設けている。	職員会議は法人の地域責任者が出席して行われ、運営に関する意見等について法人の考え方も直接聞きながら討議できるので関心度が高いようです。ユニット会議でも館長が職員からの意見の吸収に努めていました。	毎月、定期的に行う職員会議等の開催日を、年間予定表に組み込んで1人でも多くの職員が参加できるような計画的運営を期待したいと思います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金により手当を出し、向上心が持てるようになっている。ボーナスにも個人評価がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年2回の研修がある。それ以外にも随時行っている為、職員には受けるよう勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修に参加して同業者との交流を図っている。職員にも参加するよう声をかけている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前面接に行き、本人と話し合いながら要望等を聴いている。来設できる方には施設見学をして頂き、少しでも安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や契約には充分時間をとり、困っていることや要望を聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や契約の時には家族、利用者、管理者、介護支援専門員で相談し、必要なサービスを決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に散歩をしたり、家事をしたりして楽しみを共に感じ、一緒に悩み、お互いを必要とする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回は家族へ手紙を出し、年1回は家族交流会を開いて本人と家族の絆を大切にしている。面会に来た時には職員と家族が話す時間を作り、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加したり、本人が昔働いていた場所やお店などに希望があれば行き、関係が途切れないように支援している。	27名の利用者の大半が事業所近隣に自宅を有してい居るので地域行事への参加の機会は大切にしています。また、近くの八百屋への買い物などに一緒に行ったり、日常の散歩での出会いを大切に支援していました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格を把握し、孤立しないように職員が間に入ったり、壁画など協力した作品を作り関わり合いが持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も特養や、同じ系列に移った方には近くに行ったときに様子を見に行き関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを聴きながらアセスメントしてケアプランを立てている。日常の会話でも思いをくみ取るよう努力している。	法人独自の統一された様式によりアセスメント等を行っています。本人の自立に向けた寄り添う介護を行うべく、家族や本人の意向を良く聞き、本人の自己実現に向けての努力を館長から伺う事ができました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接では、本人や家族から今までの暮らし方などを聴きとっている。入居後は、本人と馴染みの関係を築きながら聴きとり、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護経過、介護詳細に記入し日頃の状態を把握している。また、連絡ノートを使い介護職員が皆把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録にケアプランが実践されているかを毎日評価し、3か月ごとにモニタリング、6か月ごとにケアプランを立て直している。	グループホームの場合、利用者によっては、かなり頻繁に状態が変化する場合があるので日頃の介護記録を注視して短期間でもモニタリングやケアプランの変更など行っている事も確認出来ました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録や介護詳細に記入し、気づきなどは連絡ノートも活用し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1回理髪に来てもらったり、家族の協力のもと受診を行っている。利用者の状態によっては同じ系列のケアセンターや療養型を紹介している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中高生の体験学習の場になったり、運営推進会議を通じて警察や消防の方に協力して頂き安全で楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前には家族にかかりつけ医を選んで頂いている。内科、歯科は協力医があり、それ以外は家族に協力して頂いている。	入居間もなく、投薬も安定していない利用者や、専門的な治療等も必要な利用者を除いての多くの利用者が協力医に受診を委ねて居ました。他のかかりつけ医の受診でも、日頃の状況の記録等を家族に預けるなどの支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックをして状態の変化を見逃さないよう気を付けている。準看護師の免許を持っている職員がいるので相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に必要なだけの情報を提供し、入院後は、お見舞いに行きながら家族、病院側に状態を聴き早期退院が出来るように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、入院時に重度化した場合に施設で出来ることを十分に説明し、必要があれば他医療機関に移ることも進めている。重度化についての方針なども職員会議などで話しあっている。	利用者が入院時に重度化した場合を含め、重度化や終末期に関する利用者への対応については、ご家族や職員と話し合っています。この問題に特化した「重度化に伴う対応の指針」等は特に文書化されていないようです。	充実した支援により、利用者の高齢化が進み、良いカタチで終末期を迎える方々が増える傾向の中、施設として「出来る事。出来ない事」の文書化とその対応につき双方の確認書も必要になってきていると考えます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは用意しているが実践力を身につけている職員は全員ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食の準備はしてある。防災訓練で避難口を使つての避難をしているので、職員がほぼ体験している。地域の方達と避難訓練をして協力体制は築けている。	年2回の防災訓練では地域の自警団・消防団員等参加のもと行い、防災についての指導に至るまで実施されています。施設は鉄筋2階建てです。緊急連絡用の装置も備えられ可能な限りの整備はされています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合った話し方をするよう心がけている。排泄関係など話す内容によって場所を変えたりしてプライバシーを損ねないように対応している。	一人ひとりに寄り添いプライバシーを傷つける事がないような支援に努める事が、本人の尊厳を守る事になる事をユニット会議等で日常の細かな声かけの事例まで検証して話し合っていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が要望などを言いやすい関係を築いている。また声掛けした時の表情などで思いをくみ取るよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事仕事をする方や、居室でゆっくり過ごす方など思い思いに過ごして頂いている。外出に関しては職員の配置などの関係で希望に添えない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をする方やマニキュアを塗る方などがある。服装はなるべく本人に選んで頂き、出来ない方には職員が選んだりアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査などを行い、好みの物を提供している。準備や片づけは自分の仕事と捉えられる利用者があるので一緒に行っている。	職員が交代で検食当番を担当し、献立表にその日の副食に関する感想を述べ記録し、全員で共有していました。利用者の1人ひとりには自分の持ち場を理解し手伝っています。御前崎港に近い場所ゆえ生ものは欠かせないようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量を把握したり、水分量が確保できるようチェック表を作り、測っている。声掛け、介助で全量摂取を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、夕食後には口腔ケアを行っている。ポリデントを使ったり、本人の状態に合わせてケアしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄チェック表を作り、パターンを把握している。紙パンツやパットが本当に必要か話し合いをして減らしていくよう努力している。	入居時のアセスメントで紙パンツが必要な利用者であっても、排泄に関するパターンを把握し、誘導など行っているうちに布パンツで生活出来る方が増えてくるようです。排泄に関しての自立支援は良好と受け止めました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意している。芋や牛乳などを提供し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた時間の中での入浴なので、1日に入る人数を調整して一人ひとりが希望に沿った入浴をゆったりと楽しんでいただいている。	浴室が広いので転倒には注意し、入浴を好まない利用者でも、2日に1回の入浴は出来るよう支援していました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は個々の希望に対応している。夜間も室温や湿度に気を付け、気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルには用法、副作用の書いてある紙を挟んであり、どの職員も確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までやってきた家事仕事や裁縫をしてもらい、張り合いを持って日々過ごせるよう支援している。気分転換には外食などにも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によってお花見やイチゴ狩りなどには全体で出掛けている。個々には買い物や墓参り等にも出掛けている。	付近の散歩などは日常的に行われています。今回の訪問時も職員同行の利用者の皆さんが施設へ戻って来たところでした。季節毎のレクリエーションを兼ねた外出や買い物の為の外出支援も、かなりの回数、実施されていました。	



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望する方は自分で管理したり、買い物の際は支払ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば、家族に許可をもらい電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画や花等で季節感を出している。温度や湿度にも気を付け、居心地良く過ごせるよう工夫している。	広くて明るい共同空間には、各階のユニットとも職員や体験学習に来所した中学生と利用者などで制作された壁画や大型カレンダー等で飾られ、テーブルのほか、テレビの前にはソファまで用意され、穏やかなくつろぎの場にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では気の合う利用者が一緒に過ごせるよう席の場所には気を付けている。一人ひとりの席と、皆で座れるソファがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものを持ってきて頂くように話している。入居後必要なものがあれば家族に許可をもらい、本人と選んで購入している。	各居室とも清潔で、利用者ご自身の生活歴を物語るような、思い思いの品を持ち込み、居室でも自由に過ごしていただけるような支援をしていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっていて、利用者の状態によってシルバーカーや歩行器などを使い、自立して生活できるようになっている。		